

スポーツ かわさき

No. 21



川崎市体育協会



関東ブロック大会終わる

川崎市では5種目競技実施

通称、ミ=国体といわれているこの大会は、国体の秋季大会の関東ブロックにおける予選会であって、この予選会を勝ち進んだ都県の各種目チーム・選手が国体本大会に出場できるわけである。

本年のこのミ=国体は神奈川県を主管で、県下42会場で32種目の競技が行われたが、川崎市ではこのうちの5種目が割当て担当され、市内各会場で競技が展開された。

日程は去る昭和63年8月26日(金)～29日(日)の4日間。会場と種目は次の通りである。

- テニス → 富士見・等々力の両庭球場
- ホッケー → 法政二高・住吉高の両グラウンド
- 軟式野球 → 等々力野球場
- 相撲 → 富士見相撲場
- ラグビー(少年) → 等々力陸上競技場

結果、秋の本国体に出場権を得た都県は次の通りである。

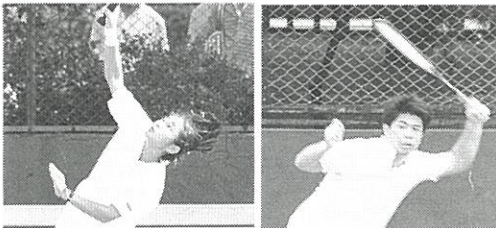
テニス

成年男子=東京・千葉・神奈川・埼玉・山梨
群馬

成年女子=神奈川・東京・埼玉・千葉

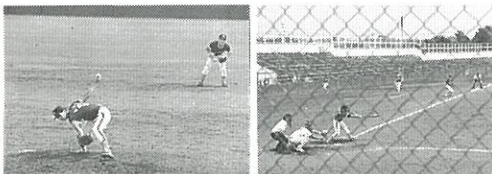
少年男子=東京・神奈川・千葉

少年女子=東京・埼玉・神奈川



野球

成年1部=千葉・山梨・群馬・東京・神奈川

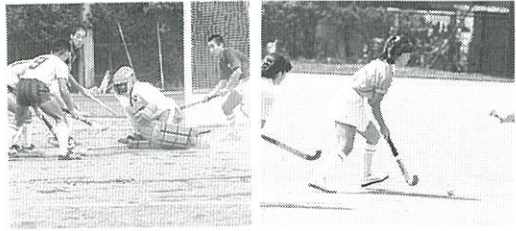


ホッケー

成年男子=山梨

成年女子=栃木

少年男子・女子とも=栃木



相撲

成年2部=東京・群馬・埼玉



ラグビー

少年男子=群馬・埼玉



本年の夏はまことに天候不順が続いたが、幸いにしてこの時期だけは雨が少なく、各競技場の施設も良く整っており、関東各地より遠来の選手諸君からも安心して競技に熱中、日頃鍛えた成果を十二分に発揮できたのではないかと思います。

大会を運営した影の力、市体協・市教委・各種目競技団体役員らの努力は並々ならぬものがあったが、この運営経験は、10年後に開かれる「神奈川県国体」の際に、必ずや大きな力となるものであろう。

京都国体を視察して

その1 中山 剛

10月15日朝、一路京都へ向かう。久しぶりの新幹線は私の胸を躍らせ、車窓からの景色も新しく感じられる。

今回、私を視察に駆り立てたひとつは、職場の川崎市水道局が出場することにあった。その野球場の宮津市へは山陰線で行く。ところが、宿舎不足で宿が取れず、やむなく丹後木津に泊まり、翌朝1時間かけて宮津市へ……。

駅は閑散としていて、案内板によれば市民球場まで徒歩50分とか。「これはいかん…？」ようやくタクシーに乗り球場へ着く。国体会場にふさわしく、山間ではあるが、球場の辺り一帯は整備され、開始式が始まっていた。

秋晴れに照らし出された緑の芝とグラウンドに、神奈川県と高知県の試合が始まる。遠く応援にきた人や地元の人が見守る中、緊迫した試合は2回に2点を先取され、そのまま惜敗してしまった。

帰路、せっかくだからと思い、日本三景「天の橋立」を見物。海と浜と松林の調和に魅せられる。

翌日、阪急河原町駅から、私の競技種目であるバドミントン会場へ向かう。丘陵地にそびえる西山公園体育館は、国体のために建てられたらしく、ホール前の石には出場選手全員の名が銅版に刻まれてあった。出場選手にはきっと思い出深いものになるだろう。

体育館ホールは大会にふさわしく、緑色の鮮やかなコートやその他の設備もよく整備された素晴らしいものであった。

9時30分。女子の準々決勝が6面のコート一斉に始まる。川崎市の大会とは一種違う迫力が一球を追う選手の動作から伝わる。観覧席も満員となり、応援にも熱が入ってくる。

やがて次の試合が神奈川県の男子となったのだが、時間の都合で帰らなければならなかった。惜しいかな別れを告げたが、京都府全体の協力体制が十分感じられる府内であった。帰りすがりメイン会場である西京極総合運動公園に立ち寄り、華やいだ気分を味わい、帰路に着く。

その2 小口常雄

今年から2巡目に入った国民体育大会は、秋晴れの10月15日、京都市西京極総合運動公園陸上競技場で開会式が行われ、全国から集まった2万人を超える若者を迎えて、スポーツの祭典の火蓋を切った。

開会セレモニーには、地元小・中学生や主婦達による集団演技を始め、古式豊かな踊りや武道の演技等があり、そのあと炬火が入場。ソウルオリンピックと同じセリ上がり式で炬火に点火されるや、場内はひととき大きな歓声と拍手に揺り動かされた。

選手宣誓に続き浩宮殿下のお言葉があり、「新しい歴史に向かって走ろう」のスローガンのもと競技に入った。

京都府下11市26町村での各種競技のうち、私が視察したのは自分が関わっている弓道である。

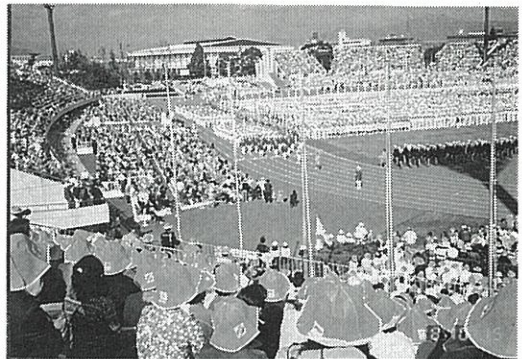
京都駅から山陰線特急で約1時間半、綾部市の総合運動公園で行われた弓道競技は、山間にある静かな環境の道場で、体育館に隣接していた。

弓道場は「近的」が新築されたものの、遠的場は渡り廊下でつながっている仮設のものであった。

しかしながら、高校生が大勢、補助役員としてボランティアで運営に当たっており、また、町内全体を見渡してみた感じでも国体一色で、なかなか力の入った運営が行われていた。

神奈川県の選手の諸君は、体調も良くリラックスしているようで、かなりの成績が期待できそうであった。

案の定、成績は、少年女子遠的優勝、成年女子近的優勝で、女子軍の活躍がめざましく、女子総合得点では第1位、男女総合得点でも第4位と、3年ぶり2度目の優勝をすることができた。



本市から75名の選手、国体へ

42年前の昭和21年に発足した国体が日本全国を一巡し、ことしは二巡目となり、そのトップとしての京都国体が行われました。

本県選手団は8月末の国体関東ブロック大会(神奈川県主管)の厳しい予選を経て選出されましたが、国体へ出た川崎市在住の選手は次の通りです。(敬称略)

☆水泳

中谷 等・伊藤年央・斎藤 譲・丹羽勝己
丹羽勝幸・蛭名一紀・小笠原一彰・唐鎌典子
高橋朋子・佐野浩美

☆カヌー

菅野定義・沢田健次

☆陸上競技

鈴木 始・棟方志美子・岩井玲子

☆バレーボール

清水雅之・上新 渉・渡辺昌幸

☆バスケットボール

真下欣哉・和瀬達彦・児島宏光
熊谷和利・田村嘉浩

☆ウェイトリフティング

小笠原祇彦

☆ハンドボール

松沢智雄・小沢勝利・小飛山誉武
森田久美子・井上久子・奥山布美子
伊藤美和子・山田圭子・島袋 恵
村端佐知子・松井千芽・伊藤桂子

☆軟式庭球

志谷早苗・高橋亜紀子・木村恵美子
青柳喜美江

☆卓球

野尻俊宣・菊池政宣

☆ヨット

宮本大介

☆ボウリング

河上光子

☆テニス

奥山誠二

☆ボクシング

白井千早

☆体操

野田佳志

☆弓道

早川文絵

☆山岳

熊谷 誠

☆空手道

佐藤秀喜

☆軟式野球

坂本謙治・杉木道明・阿部洋二
中村忠浩・三浦修一・高橋 博
竹内教雄・鹿島 学・高原 誠

☆相撲

吉川 輝・須藤繁幸・佐藤友康
長谷川勝二

☆フェンシング

真田裕司・斎藤嘉子・鈴木純央

☆ソフトボール

浜田 晃・小黑美里・二瓶美恵子
藤原佳代

☆バドミントン

石場隆雄

☆剣道

倉沢照彦・矢野裕文

☆なぎなた

小口周子・小笹原明美

第24回ソウルオリンピック 川崎市在住の代表選手

9月17日から10月2日にかけて行われたソウル・オリンピックに参加した日本代表選手で、川崎市に在住する選手を紹介し、その健闘と今後の活躍を期待したいと思います。

☆男子バレーボール

蔭山弘道(中原区)

☆女子バレーボール

丸山由美(多摩区)

☆柔道

須貝 等(宮前区)

☆体操

森尾麻衣子(多摩区)

☆フェンシング

森川明美(多摩区)
宮原美江子(多摩区)

☆カヌー

和泉博行(高津区)

☆テコンドー(公開種目)

塩川寛和(麻生区)
塩谷 巖(麻生区)

☆野球(公開種目)

潮田智信(中原区)

世界のレベルを目のあたり ……ソウルオリンピック観戦記

日本交通公社川崎支店の企画に乗っかって、ソウルオリンピック観戦ツアーに参加した。日程は9月26日から29日までの4日間。その間の2日間を競技観戦にあて、他はソウル観光ということで比較的楽な日程であった。26日13時40分成田発、ソウル着17時(韓国夏時間実施中のため日本より1時間早い)厳重な入国検査を受けて指定バスに乗り、宿泊地であるファミリータウンに向かう。

街路はよく整備され、オリンピックのムードが街中を覆って、国をあげての取り組みぶりが車中からでもよくうかがえる。

ファミリータウンは観戦者用に建設されたマンションタイプのホテルで、広大な敷地の中に15階建てのビルが約90棟並ぶ。何でも揃っていて快適な宿泊施設であった。

ただ、警備が非常に厳重で、タウンへの出入りはゲートでX線検査。各棟からの出入りはIDカード着用と、煩雑この上ない。これも然し事故防止上やむを得ないことなのであろう。



ファミリータウン

27日、ファミリータウン中央広場の地下にある3500席の大食堂で朝食をとり、市内観光に出発。景福宮・中央博物館等を見学ののち、汝牟島(ヨイド)漢江中州の繁華街を散策。夕刻からは、漢陽大学体育館で行われている女子バレーボールを観戦した。日本女子の準決勝は昼の部に終了して観戦できなかったが、アメリカ対東ドイツの熱戦、ソ連対中国の準決勝を見ることができた。

川崎市体育協会事務局長

吉田敏郎

アメリカ対東ドイツの試合は一進一退の好ゲームで、その内容には世界のレベルの高さを十分に感じさせられたが、ソ連対中国戦は、中国が全くの不調でミスが連発。ソ連の圧倒的な強さが目立つのみで、ゲームは短時間で終了した。

翌28日は、ソウル総合運動場のメインスタジアムで陸上競技の観戦。男子10種競技の1日目、100・400・幅・高・砲丸があり、また、男子の200m準決・決勝、400m決勝、3000m障害決勝、棒高跳び決勝、5000m予選、女子200m決勝、400mハードル決勝、1500m予選、円盤、幅跳びの決勝等が順次展開された。

スタンドでの私の席は第3コーナーと第4コーナーのほぼ真ん中で、前の方であったため直射日光がまともに当たり、見学の立場としては余りよい場所ではなかったが、選手達の入場が目の身近な所で見られたのが取柄であった。

世界各国の熱狂的な応援状況と、記録に対する期待度から、オリンピックならではの雰囲気は充分であったが、日本選手の活躍が余り見られなかった事は残念であった。

最終日17時45分、金浦空港発、帰国の途についたが、在韓期間中は好天気恵まれ、また、日本と比べて物価の安さが目についたこともあり、再度訪韓したいと云う感じを持った。



男子200m決勝スタート

さあ大へん！でも大丈夫！

スポーツ事故の応急手当て法



連載(第10回)
・ショックについて

日赤神奈川県支部委嘱救急法講師 左澤重明
川崎体育救護クラブ 副会長
(イラスト 草川竜二)

ショックということばは、日常的によく使われるが、その病態生理の完全説明は医学的にもまだ確立されていない。一般的には、急激に起こる全身の血液の循環不全によって、全身機能が極度に低下した状態をいうが、大別して精神性ショック・化学性ショック・外傷性ショックに分類される。

精神性ショックとは、精神が非常に緊張状態におかれた場合や、非常な興奮時＝具体的に言えば、ロックンロールなどの熱狂的なファンが、激しい興奮のために失神失禁するとか、あるいは異常な惨劇を目撃した時、また非常な恐怖に駆られたような時など、顔面蒼白となり、激しい動悸(どき)や手足の震え等に見舞われることがある類(たぐい)である。

化学性ショックというのは、ペニシリンショックに代表されるように、薬物投与によって引き起こされる反応で、インシュリンの過量注射によるインシュリンショックや、ストマイショックなどがよく知られている。

外傷性ショックは、事故に付随して起こるショックのことで、応急手当てにあたらうとする救護者は、このことについてよく知っておく必要がある。すなわち、外傷性ショックとは、事故のために血液の循環が悪くなり、そのために起こってくる全身機能の悪化状態であるが、これはすべての外傷患者や急病人に起こってくるものである。

徐々に発現する者もいれば、事故直後に急激に発現する者もいる。事故の大小や、本人の体力・気力等その時の本人の身体の代償性で、発現の時期は一概に云えない。外見上はショックが来ていないように見える患者でも、本人の身体内部では確実に進行しているものである。外傷を受け、激しい痛みを訴えてはいた者が最初のうちは気丈に振舞っていたのに、突然、無口となり、うつろな

表情となり、顔面は蒼白、額から冷や汗を流し、手足は冷えて、脈は触れないほどに早く弱くなり、吐き気やめまいを呈してくることもある。

ショック状態は、いったん発現すると、回復が非常に長びき、放置すると重大な結果をひきおこす。状態が著しい場合には、それだけで死に至ることがあるので、処置は適切に早く行い、ショックが発現しないよう、予防に万全の注意を払うべきである。

ショックの原因はさまざまあるが、出血、熱傷、挫滅傷、骨折、頭・胸・腹の損傷等のほか、過度の暑さや寒さに長時間さらした時や、また、不安感が増大された時などに起こる。特に、老人や子ども、そして空腹状態、睡眠不足、著しい心身の疲労状態の人はショックを起こしやすく、かつ、ひどくなりやすいので注意しなければならない。

●ショックの徴候と脳貧血との相違について

事故に遭った患者を手当てするにあたっては、単に負傷部位の手当てのみに終始するのではなく、ショックの徴候の発現がないかどうかを注意深く観察しながら行わなくてはならない。その徴候とは先に述べたように、手足の冷感、顔面蒼白、額からの冷や汗、うつろな視線等があるが(意識はある)のが特徴である。「どうした、しっかりしろ！」などと声をかけると、視線で反応を示しはするけれども、その反応はいかにも緩慢でもの憂げである。この点、脳貧血の患者とは少し違う。

脳貧血を起こした人の徴候と、ショックの徴候はよく似ていて識別しにくいものがあるが、脳貧血の場合は、視線がキョロキョロしたり、かなりハッキリしているのに比べて、ショックの場合は無関心な、もうろうとした視線で、不安・不穏な状態であるので、ある程度の区別はつけられる。また、脳貧血では、顔面の蒼白、冷や汗等は長く

続くことはないので、その点でも区別することができる。

●呼吸について

ショック患者は浅く不規則な呼吸をする。時々速くなったり、あえぐような呼吸になったり、時にはため息をつき、あくびが入ることもある。脳貧血の場合はそのようなことはない。

●脈について

脈を見ることは確実な識別法である。ショック患者は血圧が著しく低下するために、脈が極めて弱くなる。橈骨動脈で触れられない時は頸動脈で調べる。脈搏数を調べて頰脈（120以上）ならば重篤と考え、緊急に医療機関に運ばなくてはならない。脳貧血の場合も脈は弱くなるが、脈搏数は通常か、やや遅いのが特徴である。

●吐き気について

今にも吐き出しそうなムカツキ動作をし、実際に嘔吐することもある。脳貧血の場合はめまいがして、気が遠くなるようなことはあっても、嘔吐感はめったにない。

●ショックの予防法

ショックは重大な外傷その他の傷病に伴って発

生するものである。予防的には、そのよってくる原因を除去するための救急処置を急ぐことが第一である。つまり、出血や痛みがあれば、これを軽減する処置、すなわち止血や傷の安静のための手当てをする。骨折や挫滅傷・やけど等では、早い時間にショックが

起こってくるので、素早い対応が必要である。骨折の場合は、骨折しているかも知れないと疑われる場合であっても、確実に、早く患部を固定し、高揚する。これは救急車に乗せる以前に、事故の起こった現場で行うべきである。しっかりとした固定なしに、不用意に骨折患者を運搬すれば、苦痛を増大させ、長びかせる結果となり、ショックの早期発現の原因となる。手荒な取り扱いも厳禁である。そしてこれらの応急手当てと併行して次のような処置が必要である。

●体位

患者は枕をせず、あおむけに寝かせ、衣服をゆるめた上、足のほうを高くする。（トレンデレン

ブルグ体位という）血圧が低下し、心臓への負担が大きくなっているため、血液を身体の中心部に集中させるためのものである。また、脚部のけがの場合、患部高揚は痛みの軽減にもなるからである。ただし、頭部外傷の場合は足は上げさせない。

●保温を忘れずに

足先から肩・頸すじにかけて、毛布で十分に包みこむ。ことに肩は冷やさないようにする。大きな毛布がない時には、肩から背中を優先して包むようにする。何もなければ新聞紙を下に敷くだけでもよい。何もしないよりは、それだけでも保温についての効果はあるものである。

●安静について

外傷を受けた患部と全身の安静を保つようにすることは、いうまでもなく必要なことであるが、それと共に重要なことは、心の安静を保つようにしてあげることである。けがをした患者は非常な不安や心細さに陥るものなので、意識の程度にかかわらず、恐怖心を与えるような言動はさげ、励ましと、そしていたわりの言葉をかけることが大切である。

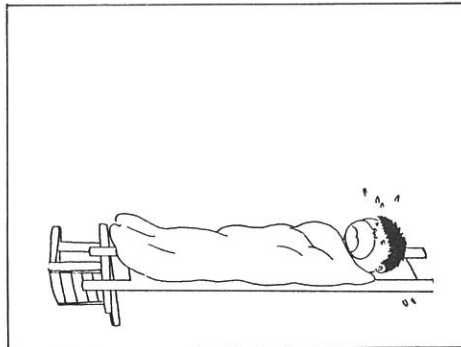
●飲み物について

救急法では、原則的には患者に飲み物は与えないようにしているが、出血や下痢・やけどなどのように体内の水分が失われている場合には、例外として積極的に水分を与えたほうが良い。用意が可能なら、ごく少量の食塩と重曹を加えたもの

を与えるといい。水1リットルに対して食塩＝茶匙1杯（約5グラム）重曹＝茶匙半分（約2グラム）を加える。この生理的食塩水を無理に飲せるのではなく、少量ずつスプーンで吸わせるようにして与える。この時、上体を起こして飲ませるのではなく、膝の上に抱いて飲ませるようにしたほうがよい。

●特に注意したい点

血痕や傷口などは、絶対に患者には見せないようにする。傷口を見た途端にショックが起こることが屢々ある。また、運搬は出来るだけ静かに行うようにする。苦痛を与えると、再びショックに陥るおそれがある。精神的激励は特に重要である。



県総合体育大会 川崎市総合優勝

4年ぶり16度目V達成

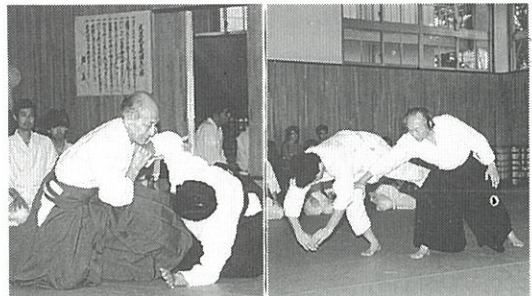


本年度の県総体は、3月の冬季競技に始まり、8月の夏季競技、9月の秋季競技までと、7カ月にわたって15種目の競技が繰り広げられた。わが川崎市はここ数年、総合優勝から遠ざかっていたが、本年度は、市体協の40周年を迎えることもあって、当初から総合優勝を目指していた。市教委・市体協・種目協会が努力し合って、選手選考・練習等張り切って準備を行ってきた成果が発揮され、各種目とも平均して得点を重ね、見事、総合優勝の栄誉に輝いたものである。

<p>◀冬季競技 3月4日～6日▶</p> <p>スキー 総合4位(23点) 長野県野辺山ハイランドスキー場</p>	<p>柔道 総合3位(24点) 県立武道館</p>
<p>◀夏季競技 8月21日▶</p> <p>ソフトボール 1回戦敗退17位(6点) 大和市下福田野球場</p> <p>軟式庭球 2回戦敗退9位(14.5点) 平塚市軟式庭球場</p> <p>水泳 総合1位(26点) 県立体育センター</p>	<p>弓道 総合9位(14.5点) 県立武道館</p> <p>軟式野球 総合1位(22.5点) 大和市引地台野球場 予選ブロックベスト4進出 本大会は雨のため中止</p> <p>サッカー 総合5位(20.5点) 県立体育センター 予選Bブロックベスト4進出 本大会準決勝敗退</p>
<p>◀秋季競技 9月18・25日▶</p> <p>陸上 総合4位(23点) 県立体育センター</p> <p>バレーボール 総合2位(25点) 藤沢市秋葉台体育館(男子3位) 県立体育センター(女子3位)</p> <p>卓球 総合1位(26点) 藤沢市秩父宮記念体育館</p> <p>剣道 総合3位(24点) 県立武道館</p>	<p>バスケット 総合1位(25.5点) 平塚市見附台体育館 本大会優勝(10年連続優勝)</p> <p>バドミントン 総合3位(24点) 相模原市総合体育館 予選会ベスト4進出 本大会3位</p> <p>クレー射撃 総合3位(24点) 県立伊勢原射撃場</p> <p>総合得点 322.5点</p>

川崎市合気道演武大会

去る10月16日、石川記念武道館において合気道演武大会が開催された。市内の道場・各種団体が一堂に会しての演武とあって、異常な熱気にあふれ、各演武者とも日頃鍛えた技を十二分に発揮、昨年にもまして充実した気力と、交歓演武の生気を感じる大会であった。



昭和63年度神奈川県体育功労者表彰

昭和63年度神奈川県体育功労者表彰式は去る10月8日、鶴見会館ホールで国体選手壮行会後に行われたが、今回は本体協所属のバドミントン協会会長田中正誼、ハンドボール協会理事長河田英彦の両氏が、表彰の栄を受けられました。表彰理由として挙げられるお二人の成績は次の通りです。

☆ 田中正誼氏

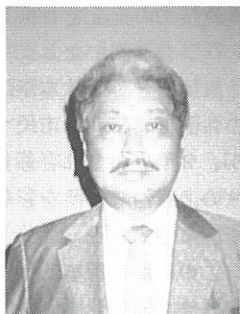
昭和46年より、川崎市バドミントン協会会長として、婦人・青少年並びに高齢者のバドミントン教室等を開催し、幅広い年齢層への普及に努めると共に、指導者の育成にも情熱を注ぎ、バドミンントンの振興に尽力されたほか、それまで未整備であった川崎市バドミントン協会の組織の確立と充実に貢献した。



また、昭和49年より川崎市スキー協会常任理事、常任顧問として、競技技術部門をはじめとする組織の強化に寄与したほか、自らも選手として国体などの競技会に出場し、輝かしい成績を残すなど、競技力向上に貢献すると共に、市民の生涯スポーツの推進に尽力された功績はきわめて大きいものである。

☆ 河田英彦氏

昭和27年より川崎市中学校体育連盟ハンドボール専門部長として、中学生のハンドボール競技の普及と競技力向上に尽力すると共に、昭和36年からは川崎市中学校体育連盟部長として、組織の発展と中学生の体育・スポーツの振興に寄与した。また、昭和38年より県ハンドボール協会理事・理事長・副会長を歴任し、組織の円滑な運営に貢献した。



昭和56年市体協にハンドボール協会として加入し、理事長として現在まで活躍中である。

盛況！ 市民マスタース水泳大会

10月2日、川崎市体協主催の第1回「川崎市民マスタース水泳大会」が中原区のニスポ・スイムクラブ元住吉プールで開催された。

当日の参加者はおよそ300名、個人種目への出場者は延べ431名、リレーへの出場数は延べ71チームもあり大盛況で、参加者は朝9時から午後3時までを精一杯楽しんでいった。

川崎市には、これまで市民が自由に参加できる水泳の大会としては「川崎市民水泳大会」があったが、この大会は中・高校生の出場が多く、一般の部門への参加数はそれほど多いものではなかった。しかし最近になって、水泳が中・高齢層に適した運動として定着してくるにつれ、一般の部門への参加も次第に増え始め、とくに高齢層でその傾向が目立ってきたため、今年はこれまでの一般、30、40、50代に加えて、60歳以上というワクを設けるまでになった次第である。

また、50mプールで実施される市民大会では泳力に自信がないと出られないという人もいて、25mの短水路での大会も開いてほしいという声があがっていた。

これらの要望にこたえて計画されたのが、今回の「川崎市民マスタース水泳大会」である。

大会の特色は、①自由形、平泳、背泳、バタフライの4種目すべて25m、50m、100mの3つの距離から選択できることと、②表彰の対象が年齢で12段階、泳力によって3段階の計36段階に分かれていることである。これによって初心者から上級者まで、それぞれが自分の力に応じてレースを楽しみ、入賞をねらうことができるようになっている。



◆ 京都国体
卓球(成年男子の部)でV達成
菊地、野尻両選手(富士通)が大活躍

第43回国体京都大会卓球競技(昭和63年10月15日～20日)は京都府宮津市体育館で開かれたが、本市在住の菊地政宣・野尻俊宣の両選手は、資生堂小田原の本橋道直選手と共に、3名の混成チームを結成、神奈川県代表として出場した。

予選である関東ブロック大会(8月27・28日)で千葉・東京等7都県の代表を7勝0敗で圧倒した余勢を駆って京都入りした両選手は、本大会予選リーグでは兵庫・岐阜・長崎を打倒。準決勝では青森県と対戦したが、これも3-0で圧勝。決勝戦は地元京都と争ったが、大接戦の末3-2でこれを下し、見事、初優勝を飾った。

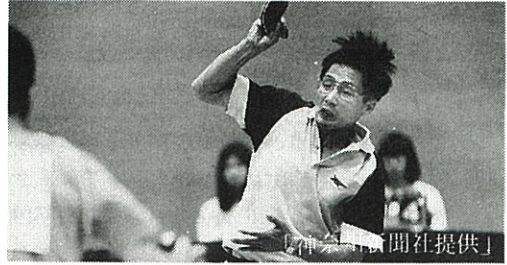
4日間の日程で5試合というハードなスケジュールにもスタミナ切れを起こさず、最後の勝利を手中に収めたのは、毎日1時間のランニングと、週3回という日頃の練習の積み重ねの成果であろう。菊地選手の本大会5戦全勝の活躍が光彩を放ったが、野尻選手の守備範囲の広さ、華麗なカットもまた大いに観客を沸かせたものであった。

〈優勝者の喜びの声〉

菊地選手：「これまで7回、国体に出場し、第17回の岡山、第35回の栃木ではそれぞれ3位に入賞したが、今回8度目の出場で念願の優勝をすることが出来、大変嬉しい思いです」

野尻選手：「社会人となってから、全日本軟式卓球選手権で61年度に2位、62年度3位ですが、優勝は初めて。大変嬉しい」

前列右
野尻選手
前列左
菊地選手



体協創立
40周年に向けて
多彩な行事を着々準備中
バスケットボール日本リーグ招へい

本市スポーツ界の総元締である体育協会が設立されたのは、昭和23年11月1日。ことして満40周年を迎えるにあたって、体協では、いま、多彩な記念行事を準備中です。

計画では、40周年記念誌(64年2月1日発行予定)を初め、記念式典・功労者表彰のほか、NHKから福島アナウンサーを招いて記念講演会(2月4日 労働会館)を行う。そしてまた、2月12日には、川崎市体育館で第22回バスケットボール日本リーグ川崎大会を開催するなど、大きなイベントを用意しています。

また、この40周年を記念して、各種目の市民大会やスポーツ教室など、市民体育の普及と振興・競技力の向上を目指し、全市的な規模でスポーツ行事を展開いたします。

皮切りとしては本年11月20日(日)に川崎市との共催で、第3回市民マラソン大会を開催しますが、2千人の参加者募集は既に満員で受付終了。秋の多摩沿線道路を彩る市民の健闘を楽しみにしています。

このほかの行事については、毎月の市政だよりその他で随時お知らせしてまいります。64年3月には、スポーツ事故の防止を目的として、日本赤十字社の協力のもと、スポーツ救急法講習会の開催を決定しています。健康で明るく、楽しいスポーツ活動の充実を目指して、市体育協会が躍進して行く姿に、どうぞご期待下さい。

参加105名で熱戦 初の市民ボウリング大会



去る8月21日、多摩区菅のよみうりボウルにおいて「第1回川崎市民ボウリング個人選手権大会」が行われた。この大会は、前回本紙で紹介済みの市ボウリング協会が主催（市体育協会、神奈川県ボウリング場協会・同川崎支部、神奈川新聞社後援）したもので、田中和徳会長をはじめ、長島啓次郎市体育課長、渡辺一夫協会長、ほかの出席による開会式の後、総勢105名の参加選手による熱戦が展開された。

競技は、参加者の約半数に当たる53名が出場した一般男子をはじめ女子・男子シニア（50歳以上）及びジュニア（18歳未満）の4部門に分かれ、それぞれ予選6ゲーム・決勝3ゲームの計9ゲームのトータルピンにより、各部門の選手権者が決定した。

なお、今大会の特徴として、次の点が揚げられる。

- ◇女子の部優勝の東キヨ子選手は、京都国体へ出場場の河上光子選手を抑えての初栄冠獲得のみならず、今大会の最高得点者で、9ゲームの合計1909ピンは驚異的なスコアであった。
- ◇一般男子優勝の中島保二選手は、男子出場者中唯一のアベレージ200up者で、大会競技副委員長としての面目を保ったといえる。
- ◇今回の参加者は、4月29日川崎京急ボウルで行われた協会発足記念大会に未出場の新規会員が大半を占め、女子の参加者が急増した。一方、ジュニア部門の出場者が少なかったことは、本協会にとって今後の課題であるといえる。

＜お知らせ＞

本ボウリング協会への加盟資格その他についてのお問い合わせは、最寄りのボウリング場協会加盟センターへお電話下さい。

【大会成績】（9ゲームトータルピン）

○男子の部				
優勝	中島保二	1839		
準優勝	松沢文夫	1786		
○女子の部				
優勝	東キヨ子	1909		
準優勝	河上光子	1753		
○シニアの部				
優勝	坪江勉	1736		
準優勝	寺本公綱	1734		
○ジュニアの部				
優勝	小原照之	1577		
準優勝	岩原良太	1379		

ガンバル中学生!

☆全国中学生テニス選手権大会優勝☆



第15回全国中学生テニス選手権大会が、去る8月1日から7日間におたって、有明テニスの森公園のコートで開催されました。

だが、これに出場した常盤安（ときわしずか）さんは、市内宮内中学校3年生。

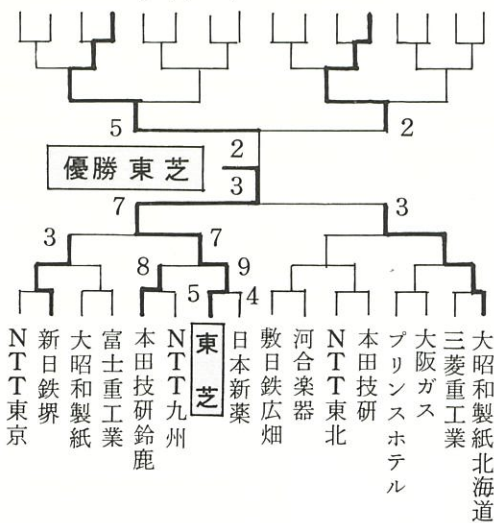
これまで、関東中学生選手権・関東ジュニア16歳以下等で優勝するなど、メキメキと力をつけていましたが、この大会では見事、全国優勝の栄冠を勝ち取りました。

彼女、最近は特に体調も良く、準決勝戦では、前回優勝の中野島中学3年生の横堀由紀さんを6-2、6-2のストレートで破って決勝に進出。関東中学生選手権準優勝の雪辱に燃える千葉幸町第2中学、長塚京子さんとの決勝では、左右により走り、また、両ハンドのグランドストロークを思い切りよく打つ攻めのテニスで、6-3・6-3のストレートで降して、初の全国優勝を成し遂げました。

常盤さんは、いま伸び盛りの中3生、今後の活躍にも大いに期待したいものです。

第59回都市対抗野球大会

ヤ マ ハ
J R 東 海
N T T 中 国
日 本 た ば こ
熊 谷 組
日 産 自 動 車
N T T 四 国
新 日 鉄 君 津
川 崎 製 鉄 神 戸
N T T 信 越
三 菱 重 工 横 浜
ニ コ ニ コ ド
N T T 東 海
北 海 道 拓 銀
日 立 製 作 所
松 下 電 器



第59回都市対抗野球大会（主催日本社会人野球協会、毎日新聞社）は、本年7月28日より8月7日まで、新装なった東京ドームで開催されたが、川崎市代表である東芝チームが、5年ぶり3度目の優勝を飾り、黒獅子旗を獲得した。

本大会は苦戦の連続で、初戦より胃の痛くなるような試合であったが、団結の力で最後の勝利をもぎ取った。この大会で、応援団は総合最優秀賞をとり、個人で高見泰範選手が橋戸賞と打撃賞に輝き、11月3日文化の日に行われる「神奈川スポーツ賞」に東芝野球部として受賞の栄に輝くこととなった。



ノビタノババッタ! 頑張った!

市民登山「西穂高岳」に参加して

市協事務局員 小林 宏子

前任の事務局員鈴木さんの後を受けて体協に入り、まだ何もわからぬうち、早速にも市民登山へ不安で一杯のまま参加しました。

きつい穂高の登りに「どうしてこんな苦しい思いをしてまで登山するのだろうか」と思いながらも、しかし、頂上に立った時には「あ～来て良かった。再た次の時も絶対参加しよう」と思いました。それほど良かった市民登山、山岳協会の皆さん、有難う!

これワタシです。



編集後記

- スポーツにおける心の持ち方の大切さを感じた。「一つも負けれられない」と思うか、「二つ勝てばいい」と思うか。（皆川）
- この僅か数ページの一冊を作る苦勞と、完成の喜び! 「ALL FOR ONE; ONE FOR ALL!」皆んなで一つ事に当たる喜びを…。（今村）
- 行動的な若い委員の諸君と一緒に組んで、爽やかなスポーツ記事を編集していると、自分の気持ちまでが瑞々（みずみず）しくなってくる。（左澤）
- たまには締切りに追われずに編集をしてみたいな。原稿、早いうちに頼みますネ。（谷口）

発行編集 昭和63年11月15日（21号）
川崎市体育協会・同広報委員会
〒210 川崎市川崎区宮本町6番地
（川崎市教育委員会体育課内）
電話（044）200-3312
印刷 秋田印刷有限会社 766-5650